



2025年12月15日発行(季刊)

認定NPO法人 市民シンクタンクひと・まち社

〒160-0021 新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル501

TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202

E-mail npo@hitomachi.org

URL : <http://www.hitomachi.org>

郵便振替口座 00170-6-410791 NPO法人市民シンクタンクひと・まち社

垣間見た中国(北京)の高齢福祉

認定NPO法人市民シンクタンクひと・まち社 理事 木下伸子

◆東京都日中友好協会(都日中)主催の北京市との市民交流事業に参加

参加者は、協会役員の団長、職員の秘書長のほか、高齢施設経営の社長、大学教授、日中関係会社役員、ケアマネジャー、看護師、大学生、それに私と友人の総勢10人。

到着1日目は、次年度の「両国の友好交流活動に関する覚書調印式」に合わせた北京市人民対外友好協会主催の晩さん会に始まり、2日目は、北京市大興区で、北京日中インベーション協力モデル区の展示ホールや企業、中国建築設計院を訪問し、健康・介護産業を見学・意見交換。3日目は石景山区の日本の明治時代からあった膨大な錬鉄所移転後の公園を見学し、午後は高齢者福祉施設を見学・懇談した。

◆北京市石景山区の高齢福祉

石景山区は北京中心6区の中で3番目の面積約86km²の中に9つの街道(エリア)を持つ、人口56万1千人の都市である。高齢化率は市内トップ3に位置しており、区は養老介護(高齢者福祉一筆者解釈)計画で、医療サービスと医療・介護の結合等を定めている。養老サービスは、区の養老サービスセンターの下、ハブサービスセンターが9街道中7か所に設置され、それぞれ、所管エリア内の認知症などの特別対象者(要介護者)に対し、施設サービスや在宅サービスとして、経済的・生活的自立支援、食事支援、緊急体験設備、介護ベッド、病院との連携等を行っている。

◆孝和居養老服务中心(高齢者サービスセンター)

ハブセンターの一つ、八角街道孝和居養老服务中心(在宅高齢者サービスセンター)では、建物の1階がデイサービスで、日本と同じように様々な活動をしており、地域の高齢者が通ってくる。

病気になった場合は、治るまで、2階のベッドルームで治療と介護サービスを受けることができるという。期間はかなり長くもいられるそうで、日本の小規模多機能サービス+老健的な機能があるように思った。利用者の何人かが、興味ありげに近寄ってきて筆者に「70(歳)?」と聞いてきた。「80歳」と答えると、にこにこしていたが、交流、とまではいかず残念だった。

◆五星级(五つ星)高齢者施設「寿山福海養老服务中心石景山院」

寿山福海養老サービスセンター石景山院はいわゆる老人ホームだが、五星级というだけあり2万m²の敷地に病院部分だけで3千m²、居室部分は一直線の廊下に面して100mにわたり設置されている。池あり林ありという中国庭園式の庭がある施設内に、100人以上の入所者がいるようだ。居室も広くホテルのような設えで、ハイテクの介護設備が整っており、ゆったりと過ごせそう。「高級有料老人ホーム並みですよね」と思わず口走り、いや中国ではそういう区別はないのだと焦る。が、どのような人が入りどのくらいの経費が掛かるのかは、気になる。ここは、寿山福海養老というグループ会社が北京市から受託しており、1:1または1:2で介護し、ベッド代、介護サービス、食事代(食事がカスタマイズできる)で月1~1.2万元とのこと(医療料金は別会計)。公営の7千元に対しかなり高額だ。五星级ということでこれからは、認知症や看取り対応も課題としているとのこと。それにより日本円にして、月額40万にはなるだろう、と。日本の介護保険のような制度はまだ限られた一部の地域のようだし、経済的支援制度はあるらしいがやはり格差が生じるのは否めないのではないだろうか。

■日中共通の課題は?

急速に進行している中国の高齢化、それに応じて高齢福祉サービスの需要が高まっている、それに対応する課題の大きな一つは、なんと「人材不足」だという。えっ!?こんなに人口が多くて、若者の就職難なんて、時折ニュースで見た気がするけど・・・「若者はこういう仕事を好まない。人材育成機関も必要で」と、そのあたりのノウハウを日本に期待されているようだが、こちらも同じ悩み。介護用機器開発に、力が入るのも必然の成り行きだし、互いに知恵を出し合って、良いサービスが提供される社会づくりができたらしいな、と思いながら、帰国したが、あれっ、逆にまた国家間のこの状況、ため息つきつつ、雑駁な報告を閉じます。